

事務事業評価表 平成25年度

政策 環境と調和する都市の構築
 施策 水とみどりの保全と創出活用
 基本事業 水とみどりの創出活用

事業名 **地域緑化事業**

[0026]

部名	生活環境部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	環境室環境課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 市民
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 市民との協働により地域緑化を推進し、みどりを育てる。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) ・市民植樹を実施するとともに植樹木の保育(病虫害防除)を行う。 ・市民団体等が行なう緑化事業に必要な樹木・資材(苗木及び株、黒土、堆肥)等を提供し、緑を創出する。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	市民	人	122,138	121,705	121,385	121,385
対象指標2						
活動指標1	治療養生及び病虫害防除樹木数	本	981	1,041	1,037	1,070
活動指標2	提供した樹木及び資材の額	千円	538	501	508	518
成果指標1	植樹参加者数	人	126	69	63	70
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	1,469	1,861	1,506	1,778
正職員人件費(B)		千円	5,239	5,217	2,806	2,820
総事業費(A) + (B)		千円	6,708	7,078	4,312	4,598

費用内訳	
24年度	需用費 30千円、委託料 608千円、使用料及び賃借料 105千円、原材料費 763千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	みどりは快適な環境づくりやまちづくりに欠かせないものとして市民の関心が高まりを見せている。
--------	--	-------------	---

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

市緑化推進条例の理念を進めていくために、市民団体等が行う植樹を支援していくことは妥当。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

緑環境を創出する一つの手法であり水と緑の創出活用という基本事業に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

花のある街並みづくり運動の広まりと連携し、市内各所で緑を創出している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

市民の手による植樹は、緑への愛着を深めることにつながるため、今後の市民植樹等への参加を通して、成果の向上が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

公共施設に植樹していくものであるが、市民や学校などの協働を維持していくには一定のコストは必要。